

ゴールド認証の日々と
和光紙器が経営戦略披露
埼玉県、サステナブル
経営実現へシンポジウム

埼玉県は、「埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム」を推進する。和光紙器は、このプラットフォームを活用し、持続可能な経営を実現する。和光紙器は、このプラットフォームを活用し、持続可能な経営を実現する。



体の社員ら43人が参加。日さく（さいたま市大宮区）の若林直樹社長、和光紙器（川口市）の本橋志郎代表取締役が経営戦略を披露した。

県は2025年に「サステナブル企業認証制度」を創設し、気候変動や社会課題に対応する企業を評価している。両社は企業情報の透明性確保や人材の定着・確保策、循環型社会の創造に貢献したとしてゴールド認証を取得した。

創業115年を迎える日さくは、さく井工事から地質調査、特殊土木などを手掛ける。働きやすい職場環境を目指し、社員旅行や地域の清掃活動などを展開。

シンポジウムで若林社長は「従業員を人材ではなく“人財”と捉え、人柄を重視した経営を10年間続けてきた」と説明した。

和光紙器は「脱ナフサ」製品の開発に注力していることを紹介。100%再生素材の包装資材を開発している。本橋代表取締役は、「従業員の満足度向上だけでは中小企業には限界もある。やりがいを引き出す経営に尽力している」と述べた。製品の品質と安全性や資源循環・廃棄物削減に取り組んでいるとアピールした。

